

◆地域公共交通計画とは

「地域公共交通計画」は、地域公共交通が果たすべき役割を踏まえた上で基本方針や目標を設定し、目標達成のために実施する事業等を定めた計画で、『公共交通に関するマスタープラン』となる計画です。

羽島市地域公共交通計画

基本理念(将来像)

人と暮らしをつなぎ、
みんなで支えあう地域公共交通体系の構築

計画の区域

羽島市全域
(隣接市町との連携を含む)

計画の期間

令和2年度～令和6年度

基本方針・目標

基本方針1 地域の日常生活を支える公共交通サービスの確保

[目標] みんなの暮らしを便利にする公共交通の実現

基本方針2 まちづくりと連携した公共交通ネットワークの形成

[目標] 人の交流やにぎわいを生み、まちを活性化させる公共交通の実現

基本方針3 わかりやすく誰もが利用しやすい環境の整備

[目標] みんなが知っている、気軽に使える公共交通の実現

基本方針4 多様な主体の連携による交通まちづくりの推進

[目標] みんなが協力して支えあう公共交通の実現

目標達成のために行う事業

運行サービスの改善

- ・乗り継ぎ利用の促進
- ・コミュニティバスの見直し

公共交通のPR・利用促進

- ・出前講座、乗車体験会
- ・バス車両ラッピング
- ・運転免許証自主返納者への特典
- ・高校生の通学定期補助

わかりやすさの向上

- ・公共交通利用ガイドの発行
- ・地域別マップの作成
- ・JR岐阜羽島駅前広場の改善
- ・ICTを活用した情報発信

協働・連携

- ・地域住民のニーズを反映させる仕組みの構築

(主要な事業を抜粋)

評価指標

評価指標	目標値
利用者数	
名鉄竹鼻線・羽島線	204万0,000人/年
名阪近鉄バス羽島線	15万3,000人/年
羽島市コミュニティバス	10万2,000人/年
商業施設・市民病院の乗降者数	65人/日
中心市街地の コミュニティバス乗降者数	390人/日
通勤・通学以外の外出頻度	85%
主要交通結節点での 乗り継ぎ利用者数	25人/日
出前講座・乗車体験会の開催回数	12回/年
コミュニティバスの認知度 (自宅最寄りバス停の認知率)	73%
協働・連携した取り組み数	5年間で5件以上

羽島市地域公共交通計画（令和6年1月改定）において定めている数値目標のうち、令和6年度の段階で評価が可能な指標について、令和6年度の目標達成状況を整理した。

目標① みんなの暮らしを便利にする公共交通の実現

令和6年度の利用者数と令和元年度の利用者数を比較すると、名鉄竹鼻線・羽島線は7%減少、名阪近鉄バス羽島線が12%減少、羽島市コミュニティバスの利用者数は13%減少となっている。他方、羽島市コミュニティバスの商業施設・市民病院の乗降者数は目標値を達成している。

目標① 評価指標	実績値		目標値
	令和元年度	令和6年度	令和6年度
利用者数 名鉄竹鼻線・羽島線 名阪近鉄バス羽島線 羽島市コミュニティバス	*203万0,994人/年 15万2,227人/年 10万1,343人/年	**183万9,101人/年 13万3,638人/年 9万6,084人/年	204万0,000人/年 15万3,000人/年 10万2,000人/年
商業施設・市民病院の 乗降者数	64人/日	73人/日	65人/日

目標② 人の交流やにぎわいを生み、まちを活性化させる公共交通の実現

令和6年度の中心市街地のコミュニティバス乗降者数は、令和元年度と比較して15%減少している。

目標② 評価指標	実績値		目標値
	令和元年度	令和6年度	令和6年度
中心市街地のコミュニ ティバス乗降者数	388人/日	328人/日	390人/日

目標③ みんなが知っている、気軽に使える公共交通の実現

令和元年度までは順調に回数を重ねてきたが、地域住民と対面で開催する性質上、コロナ禍の影響で令和2年度以降開催できない状況が続いていた。コロナ禍が明け、若干開催回数は回復してきたが、今後は新たな計画の中で公共交通PRの機会の確保を検討していく。

目標③ 評価指標	実績値		目標値
	令和元年度	令和6年度	令和6年度
出前講座・ 乗車体験会の開催回数	*11回/年	4回/年	12回/年

目標④ みんなが協力して支えあう公共交通の実現

令和5・6年度は、民間提案によるデマンド型交通「mobi（モビ）」の実証実験を実施した。また、デジタルサイネージへの有料広告掲載を通じた地元企業による地域公共交通への支援を実現することができた。

目標④ 評価指標	実績値		目標値
	令和元年度	令和6年度	令和6年度
協働・連携した 取り組み数	*0件/年	5年間で3件	5年間で5件以上